

財政学 B	准教授 小松原 嵩史
-------	------------

1. 授業のねらい・概要

財政学 A の概要で記したが、財政 (public finance) は、公的部門 (政府・地方自治体) が財源を調達し、支出することを通じて国民経済の運営を行うものである。財政学は、このような収入・支出を伴う政治経済問題を分析の対象としている。

最近では、少子高齢化の進展に伴う社会保障問題、深刻化する財政赤字の問題は切実さを増しており、社会保障と税の一体改革や消費税増税などの政策論議が展開されている。これらの財政問題は景気の動向とも関わり、デフレや不況のもとでは解決が一層困難なものとなるが、今後はアベノミクスの政策展開のなかで景気浮揚策の成り行きにおける政府の財政健全化への取り組みが注目される。

本講義では、主として財政支出、租税、公債に関する主題を取り上げ、近代経済学の分析に基づいた財政理論の解説をする。具体的には、そもそも財政赤字は何が問題なのか、維持可能な財政状況とはどのような状況であるか、公債の負担とは何か、また、税制の現状と問題点は何か、公平な税制とは何か、所得分配の格差や再分配の状況はどのようなものか、そして景気回復と財政の健全化のジレンマにどのように対処するかについて様々な議論を整理しながら見てゆく。

2. 授業の進め方

授業計画にしたがって、講義形式で行う。テキストは用いないが、講義資料を配付し、必要に応じて参考文献の関連箇所を指示する。また、時事的な財政問題を適宜取り上げ、考察を試みる。

3. 授業計画

1. 講義概要の説明, 財政学とは?	9. 所得の再分配 (2): 所得再分配調査, 貧困率
2. 財政の機能	10. 財政赤字の問題点
3. 財政支出 (1): 公共財供給の理論, 財政支出の内容	11. 財政赤字の現状
4. 財政支出 (2): 費用便益分析, PFI など	12. 公債負担の考え方
5. 租税 (1): 税の分類, 転嫁と帰着	13. 財政の維持可能性
6. 租税 (2): 所得税と消費税	14. 財政健全化とマクロ経済
7. 租税 (3): 法人税, 資産課税	15. まとめ
8. 所得の再分配 (1): ローレンツ曲線, ジニ係数	

4. 到達目標

取り上げた主題について財政学の基礎理論や考え方を文章により説明できること。

5. 準備学修に必要な時間, またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業項目に関連する内容について参考図書を読むこと (30 分程度)

6. 成績評価の方法・基準

受講状況および学期末試験の結果を合わせて評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。資料を配付しテキストの代わりとすることがある。

(参考文献)

『図説日本の財政 (最新年度版)』東洋経済新報社

その他の参考書は適宜講義時間中に紹介する。

8. 受講上の留意事項

関連科目として財政学 A を履修することが望ましい。

出席回数が一定以上に達しない場合は、単位は認定されないとするので注意すること。